

ラベル用 IJ 印刷機を実演 - スリーブ方式のオフセット機も初披露 -

(株)ミヤコシ(千葉県習志野市津田沼、宮腰巖社長)は、11月27日から3日間、内覧会「OPEN HOUSE2012」を千葉県八千代市大和田新田の同社 POD 事業本部クリーンルームで開催。期間中、約1500人の印刷関係者が来場し、同社の最新製品などのデモンストレーションを見学した。

同イベントは最新機種を含む11台の印刷機や後加工機をメインに展示。製品のプレゼンテーションと実演を行った。

イベントの目玉は初披露のラベル向けインクジェット(IJ)デジタル印刷機とレーザー大カッター、スリーブ式オフセット印刷機の展示で、多くの来場者がこれらの実演に見入った。

ラベル向け IJ デジタル印刷機「MJP13LX-2000」は、水性顔料インクを採用しており、インクコストが UV インク採用機に比べ安価であることが特徴。CMYKに加え最大4色の特色を搭載でき、企業のコーポレートカラーなどの印刷で力を発揮する。

最大印刷速度は毎分50mと生産機として十分な性能を保持しており、少から中量のラベル生産に適している。最大印刷幅は318mm、印刷解像度は1200×1200dpi。

会場では毎分30mで運転し、一昨年のラベルコンテスト輪転部門の課題を印刷。フレキシブルダイ対応のダイカットツールが搭載されており、ワンパスでの抜き加工からカス上げまでを実演した。

担当者は「デジタル印刷機は準備時間の短縮や印刷品質管理のしやすさなど利点が多く、ラベル業界でもさらに普及が進むだろう。海外での展開も考えており、それになった機能の変更も考えられる」と話し、製品に期待を寄せる。

同機の隣では、デジタル印刷機向けの後加工機として、レーザーダイカッター「MSP13A-1000」を展示した。

デモでは毎分4mの速度で抜き加工し、カス上げまでを披露。加工後のラベルを指で触れ、エッジを確かめる来場者の姿もみられた。

最大加工サイズは330×330mm、最大加工速度は毎分10m。同社ではデジタル印刷用加工機のエントリーモデルと位置づけており、少量多品種のラベル製造で活用を見込む。

コンベンショナル機ではスリーブ式オフセット印刷機「MHL13A-3000」を初披露した。

製品はスリーブ構造の版胴とブランケット胴を採用しており、ジョブチェンジやサイズ替えなどの作業を簡略化し、これらにかかる時間を大幅に短縮している。

また、同機には LED-UV 装置が搭載されており、インキ硬化の際、高温を発生しないため、フィルムなど薄手の素材でも収縮することなく印刷できる、最大印刷幅は330mm。

オプションでモノクロの IJ ユニートを搭載でき、可変情報の印字も可能。実演では最大速度

の 100m で印刷し、会場を沸かせた。

このほか、デジタル印刷機が 7 機種、テキスタイル用の大判のインクジェットプリンタ 1 機種などを展示。いずれの製品も繰り返し行われるデモに多くの見学者が集まり、盛況のうちにイベントが終了した。

同社では大幅にラベル印刷関連の製品を増やしており、今後、ラベル業界への積極的な PR を行うという。

問い合わせは同社(☎047-493-3854)まで。

(2012 年 12 月 01 日 ラベル新聞 掲載)